大空 ―放哉だより―

第158号　2024.10.5
発行：小豆島尾崎放哉記念館　〒761-4106 土庄町本町甲1082　☎62-0037

10月に入り、やっと過ごしやすくなってきました。小豆島の秋といえば？やはり寒霞渓の紅葉でしょうか。また、夜になると秋祭りの太鼓の練習の音が響きはじめることで、秋を感じる人も少なくないかもしれませんね。秋の豊作に感謝し、八幡神社で太鼓台奉納が行われます。各地区ごとに特色があり、力強く迫力があります。秋祭りを楽しみにしている人も多いと思いますが、放哉もこの伝統行事にふれ、楽しむことができたのでしょうか？！以下↓、秋祭り頃の書簡と句稿、祭りを詠んだ句を紹介します。

句稿……俳句を書き記した原稿

○以下、島ノオ祭雑吟です…島ノオ祭ニハ、御輿も無い
御榊も無い、只、大小無数の太鼓を皆で、かついで
ドン〳〵叩いて、海神を驚かすのです…太鼓の大
なるものは、素破らしい物があります、…神戸の楠公サン
のを買って来たとか云ふ、履歴ツキのもあります……
小サイのは小供が擔ぐ、東京の樽御輿のワツシヨイ〳〵
と仝様……なか〳〵、よいのが出来ませんが、マア
見て下さいませ、……（太鼓八人が上ニ乗ツテ居テ叩クノデスヨ）

柿の核子　吐き出して太鼓をかつぐ

『尾崎放哉　資料調査報告書』より

荻原井泉水あて封書（大正十四年十月十五日）

〈略〉……島の町の、オ祭り、…昨日ト今日ト、ですがな、（淵崎村モ）町中、村中、アゲての大騒ぎ、……イロ〳〵御馳走と、オ酒をもつて来られて、大ニ閉口、……久しく呑まなんダモノ故、……カラダが非常に苦しい、……向フノ男が今モ酔つて来てるからモウのまぬ、――苦しくてタマラン、オ正月まで、一杯も呑まぬよと念を押してゐる処です、苦しいですな、…〈略〉

『尾崎放哉　資料調査報告書』より

詠んだ俳句……句稿には数句書かれ、その中から『層雲』に掲載された句

その手がいつ迄太鼓たたいて居るのか

天気つづきのお祭がすんだ島の大松

お祭り赤ン坊寝てゐる

卵子袂に一つづつ買うてもどる

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	❺
6	□7	8	9	10	11	12
13	□14	□15	16	17	18	19
20	□21	22	23	24	25	26
27	□28	29	30	□31		

●放哉だより発行日
□記念館休館日　□資料館休館日